



2021年6月15日

## マツダ、バイオエンブラ新意匠 2 層成形技術が プラスチック成形加工学会「青木 固」技術賞受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、マツダの研究開発者がバイオエンブラ<sup>1</sup>新意匠 2 層成形技術の開発において、一般社団法人プラスチック成形加工学会より第 31 回(2020 年度)「青木 固」技術賞を受賞したと発表しました。同賞は、プラスチック成形加工技術の発展に貢献した創造性の高い技術内容を広く内外に周知するとともに、将来のより深い進歩を促すことを狙いとして創設され、独創的かつ優れた技術を表彰の対象としています。

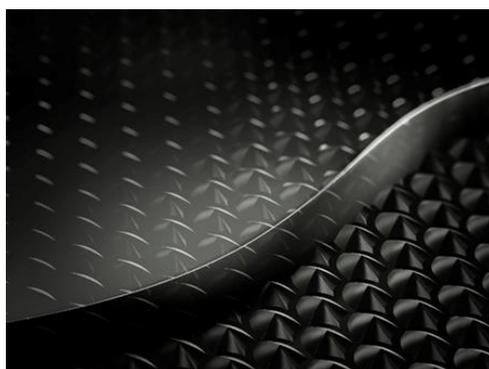
### 【受賞概要】

#### ■第 31 回(2020 年度)「青木 固」技術賞

受賞対象： バイオエンブラ新意匠 2 層成形技術の開発

受賞者： 一原 洋平(いちハラ ヨウヘイ)

受賞理由(概要)： 本技術は、透明感のあるバイオエンブラの表層と、光を反射・吸収して緻密さと透明感を発現する模様を転写した基材との 2 層成形により、従来技術では困難であった緻密な柄と深みのある色合いが共存する意匠性をもつ成形品を得るものである。量産実績が多数あり、実用化が定着しており、さらに、材料の色や基材に転写する模様を変えることで、多種多様な意匠への適用の自由度も高い。本技術は、我が国のものづくり技術に大いに貢献するものと期待できることから、受賞業績としてふさわしいものと判断した。



バイオエンブラ新意匠 2 層成形技術イメージ

マツダはこれまでバイオエンブラの特徴を活かした内外装意匠部品の無塗装化技術開発を行い、材料の持つ優れた環境性能だけでなく、従来塗装では実現できない高質感と、従来塗装工程廃止による環境貢献およびコスト改善を実現してきました。マツダが開発したバイオエンブラは、2015 年にロードスターの小型内装部品に初めて採用して以来、現在国内で販売しているすべての乗用車<sup>2</sup>の内外装意匠部品に採用しています。その過程で、当初の小型部品から大型外装部品に採用できるようになるまで技術を進化させてきました。

今回受賞したバイオエンブラ新意匠 2 層成形技術は、これまでのバイオエンブラ無塗装化技術の商品性をさらに向上させるため、従来では実現困難な高い意匠性を実現できる技術として開発し、「MAZDA3」「MAZDA CX-30」のシフトパネル、カップホルダーリッドパネルに採用しています。

マツダは、いつの時代もクルマを通じて、お客さまに人生の輝きを感じていただくことを目指し、「走る歓び」にあふれたクルマをつくり続けてきました。今後も、クルマを愛し、「走る歓び」を楽しむお客さまに愛着を持って、いつまでも保有したいと思っただけのような、独自性にあふれた商品・デザイン・技術・顧客体験の創造に挑戦し続けてまいります。

以上

\*1 バイオエンジニアリングプラスチック(バイオエンブラ)：植物由来原料を使用し、石油資源の使用量削減やCO<sub>2</sub>排出量の抑制、無塗装によるVOC(揮発性有機化合物)の削減など、環境負荷の低減に貢献できる材料。

\*2 「MAZDA2」「MAZDA3」「MAZDA6」「MAZDA CX-3」「MAZDA CX-5」「MAZDA CX-8」「MAZDA CX-30」「MAZDA MX-30」「MAZDA ROADSTER」(2021年6月15日現在)

#### 【ご参考】

##### ■一般社団法人 プラスチック成形加工学会

<https://www.jspp.or.jp/index.html>

##### ■マツダニュースリリース「マツダ、低環境負荷のバイオエンブラ新意匠 2 層成形技術を開発」

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2018/201812/181205a.html>

##### ■マツダニュースリリース「令和 2 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞について」

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2020/202004/200407a.html>